



科学体感フェアボランティア体験

熊本大学薬学部1年 中谷咲良*1 中嶋あずさ*1 松羅由香*1 宮下知佳*1
古後徹也*2 前田ひかる*2 八木遼太郎*2

*1：薬学科 *2：創薬生命薬科学科

概要と目的

日時：11月9日

場所：熊本市環境総合センター 参加人数：765人

・熊本市環境総合センターで科学体感フェアに学生ボランティアとして参加

子供達と触れ合いながら科学の楽しさを伝えようとした。身近な科学を体感できる様々なコーナーがあり、私たちは、担当のコーナーで子供達にわかりやすく説明をしたり、事故がおきないように指導したりした。科学体感フェアは毎年11月に開催されており、参加する子供たちは幼児・児童が中心である。そのため、ボランティアとして接する際には大人に対して行っているようにするのは異なり、注意することが多かった。

<目的>

子供達に遊びを通して科学の楽しさを体験してもらう



難しかったこと・出来なかったこと

- ・子供にも大人にも楽しんでもらえるようにすること
- ・子供にとって難しいかもしれない原理をわかりやすく説明すること
- ・子供の目線にたって一緒に楽しむこと
- ・子供がけがをしないように常に子供たちに注意を向けておくこと

各コーナーの説明

<六角返し>

卵→ひよこ→鶏の順（鶏の変体）に紙に描かれた絵が変わる、ちょっと変わった折り紙が体験できるコーナー。折り方が複雑なので小さい子には一つ一つの手順をゆっくり教えながら横で一緒に作った。

想定される問題点

- ・型紙を切るときにはさみを使うので手を切る可能性がある

留意点

- ・常に注視しておく
- ・小さい子なら代わりにやる
- ・角を丸くする



<ストロケット>

ストローと牛乳パックを使って簡易なロケットを作る。原理は空気砲と同じで牛乳パック内の空気をおしだしてストローを飛ばす**力学的エネルギー保存**だ。子ども達が夢中になっ

想定される問題点

- ・型紙を切るときにはさみを使うので手を切る可能性がある
- ・人に向かってロケットを飛ばす

留意点

- ・小さい子なら代わりにする
- ・はさみで切ること集中させる
- ・広くてすいてる場所へ誘導する



<世界の水>

ドイツ、イタリア、フランス、カナダ、日本（熊本、富山）の水を飲み比べできるコーナーだ。

硬水・軟水の違いが体験できた。一番人気だ

想定される問題点

- ・こぼれた水で子供が滑って転ぶ
- ・硬水を子供が飲みすぎると下痢になりやすい

留意点

- ・こぼれたのに気づいたらふき取る
- ・子供に硬水を飲ませるときは少量に



<ぶんぶんごま>

型に絵を書いて自分でぶんぶんごまを作って体験するコーナーだ。

慣性の法則を利用して回す。子供たちは回すのを苦労していましたがうまく回せた時の笑顔は大変かわいかった。

想定される問題点

- ・顔の近くで回すと大変危険である
- ・回すコツをつかむのが難しい

留意点

- ・十分に注意を促す
- ・自分たちが子供たちの手を持ち一緒に回す



<プラバン>

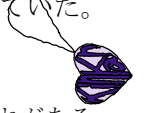
プラスチックの薄い板に絵を描いてオーブンで焼いてアクセサリを作るコーナーだ。ポリスチレンの**熱可塑性と弾性**を利用している。たくさんの子供が作りに来ていた。

想定される問題点

- ・火を扱うので火傷する恐れがある
- ・プラスチックで手を切る恐れがある

留意点

- ・オーブンから離れてもらい、また出来上がったばかりのプラバンを触らないように注意する
- ・焼く前の板の角を丸く切る



<感想>

職員の方々の熟練度に感心した。今後もこのようなボランティアに参加してみようと思う。